



# 10<sup>th</sup> Anniversary

2011 - 2021

日産自動車九州 10周年記念誌

日産自動車九州株式会社



# **NISSAN MOTOR KYUSHU**

## **10th Anniversary**

2021年10月 日産自動車九州は、皆様に支えられて10周年を迎えることができました。  
従業員一同、これからも地域に根ざした会社づくり、お客様に満足いただける  
クルマづくりを続けていきます。





# 設立 10 周年を迎えて

Greetings

## 社長あいさつ

日産自動車九州は1975年日産自動車九州工場として操業を開始いたしました。  
また、その後2011年に日産自動車から自動車製造委託会社として分社化し、日産自動車九州株式会社として2021年10月に設立10周年を迎えることができました。その間1975年4月から2000年11月までに5,954,046台、6モデルのエンジンを生産。完成車としては46モデルを立ち上げ累計台数として10周年を迎えた時点で17,053,459台の完成車をお客様のもとへお届けしてまいりました。また、生産を支えてくれた従業員は1975年4月に436名でスタートし、2021年10月時点で約4,600名という巨大企業に成長することができました。これもひとえに日産車をご愛顧いただいているお客様、関連企業の皆様のご協力、ご家族の皆様、諸先輩方の支えがあつての事だと考えております。

さらに弊社は自動車製造のみならず教育支援の一環として、工場見学の受け入れを行っており、2021年10月末時点で累計2,086,852名のお客様にご来場いただいております。昨今ではSDGsの取り組みとして災害時での電気自動車(EV)活用等の連携協定を北九州市、荏田町、行橋市と結び地域貢献も行っております。

今後は日産自動車での国内最大生産の量産車両工場としてさらに「お客様の満足」「地域の満足」「従業員の満足」に応えるべく更なる発展を皆様とともに目指していきたくと考えております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

日産自動車九州株式会社  
代表取締役社長

岡山 隆



## 組合委員長あいさつ

日産自動車九州設立10周年にあたり、これまで長年にわたって諸先輩方が築いてこられました良好な労使関係と相互信頼の強い絆に対し深く感謝するとともに、魅力的なモノづくりやサービスを提供するだけでなく、地域とともに発展する企業として、様々な活動に取り組んでこられましたことに敬意を表します。

グローバルを牽引するコストリーダーとして新たな一歩をスタートして以来、労使一体となって幾多の試練を乗り越えてきました。そして、いま自動車業界は100年に一度の大変革期と言われている中で、カーボンニュートラルへの対応を急がねばなりません。そのような中、追い打ちをかけるように頻発する自然災害や新型コロナウイルス感染拡大、また、それに伴う半導体不足など大きな変化点があり、我々の生活様式、働き方、更には人々の価値観に至るまで、目まぐるしい変化が続いています。

そのような時代に我々日産自動車九州労働組合につきましても同時に10周年を迎えることができ、激しい変化の時代の中だからこそ、人に寄り添う、人と人とのつながりを大事にするといった労働組合の原点や、変えてはいけなものを大切にしながら労使一体となり、この先も歩んでいきたいと考えています。

日産自動車九州労働組合  
執行委員長

中司 亮



## 副社長あいさつ

2011年に日産自動車九州工場から日産自動車九州株式会社として分社化後10年が経過し、1970年代から続いた九州のモノづくり精神を継承し、日産自動車九州として更に進化を続けながら国内最大の生産拠点の座を維持してきました。「お客様の満足」「地域の満足」「従業員の満足」に応えるべく、従業員全員が知恵を出し合い、お互いをサポートしながら活動を進めたいと考えています。

日産自動車九州で働く我々が今後の10年、20年先を見据えた活動を実践していくことで、更なる九州のモノづくりを進化させて参ります。

日産自動車九州株式会社  
取締役副社長

青井 宏





Product

歴史を飾った主な車たち



ダットサントラック 620型  
[1976年～1979年]



サファリ Y60型  
[1987年～1994年]



テラノ WD21型  
[1986年～1995年]



シルビア S13型  
[1988年～1992年]



サニー B14型  
[1994年～2000年]



**1975**  
第一号エンジン出荷  
4月に記念すべき第一号  
エンジンが座間工場へ初出荷



**1976**  
車両生産開始(ダットサントラック)  
12月から生産をスタート  
記念すべき車両第一号車は「ダットサントラック」



**1988**  
シルビア(S13)生産開始  
目標を大幅に上回る記録のヒット

生産台数 (台)

600,000

500,000

400,000

300,000

200,000

100,000

0

1978

1982

1986

1989 1990

アクスル部品生産開始

シルビア(S110)生産開始

テラノ(WD21)生産開始

サニー(B13)生産開始

パルサー(N13)生産開始

**1975**

日産自動車九州工場 操業開始



<工場規模(第一期計画完了時)>  
敷地面積 1,450,000m<sup>2</sup>(約44万坪)  
建屋面積 30,600m<sup>2</sup>(9,300坪)  
生産能力 エンジン月産2万台  
右上写真 初代工場長 川合 勇  
右下写真 九州工場竣工式

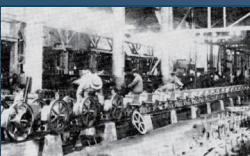


**1976**

組立工場建設 杭打ち式



当初エンジン・ユニット生産だけで  
スタートしたが、ダットサントラックを  
一貫生産する工場として車両組立工場  
の建設がはじまる



**1933**

ダット自動車製造株式会社を吸収した  
北九州の戸畑鑄物が、日本産業との共同  
出資で日産自動車のルーツとなる自動  
車製造株式会社を設立。



**1973**

地元からの誘致活動に応じて、日産  
自動車が苅田町に工場進出を決定。  
地域との調和をはかった緑豊かな  
工場建設が進められた。



# History



シルフィ G10型  
[2000年～2005年]



エクストレイル T30型  
[2000年～2007年]



プリメーラ P12型  
[2001年～2008年]



ムラーノ Z50型  
[2002年～2008年]



ティアナ J31型  
[2003年～2008年]



プレサージュ U31型  
[2003年～2009年]



ラフェスタ B30型  
[2004年～2012年]



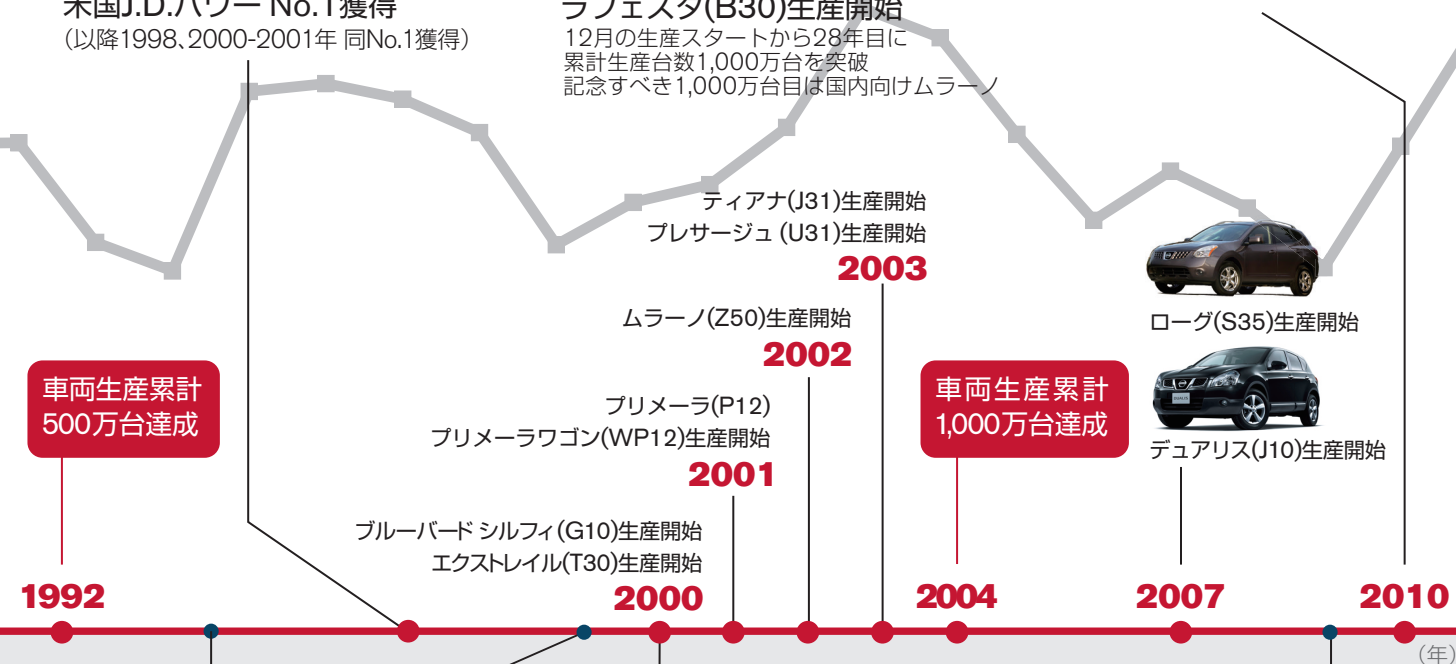
**1997**  
パスファインダー(R50)  
米国J.D.パワー No.1獲得  
(以降1998、2000-2001年 同No.1獲得)



**2004**  
ムラーノ(Z50)国内販売開始  
ラフェスタ(B30)生産開始  
12月の生産スタートから28年目に  
累計生産台数1,000万台を突破  
記念すべき1,000万台目は国内向けムラーノ



**2010**  
セレナ(C26)生産開始



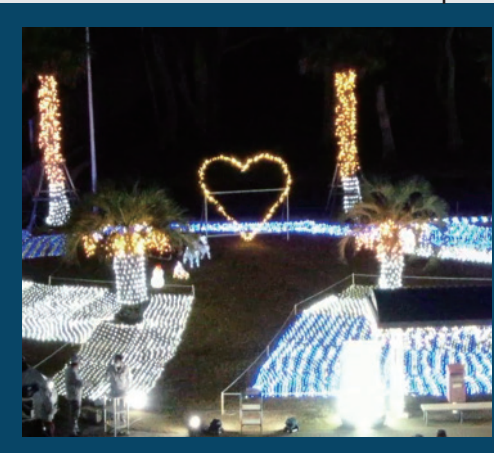
**2000**  
工場内に日産専用外航埠頭を開港  
工場・車両保管場所・船積みをも同一の敷地内で行うことが可能となった



**2009**  
日産自動車九州工場敷地内に  
日産車体九州株式会社 設立







ノート(E12)生産開始



デュアリス(J10)生産終了



ティアナ(L33)生産開始



車両生産累計1,500万台達成記念式典



ムラーノ(Z51)生産終了

車両生産累計  
1,500万台達成



ノート(E12)追浜工場へ生産移管



ノート(E12)生産終了



セレナ(C27)生産開始

セレナ(C27)自動車アセスメント(JNCAP)で  
衝突安全性能評価、予防安全性能評価ともに  
最高評価を獲得(2016年度)



お帰りなさい ダットサントラック(620型)

1976年に九州工場車両生産第1号車として誕生した後、福岡県工業技術センターにて大切に保管していただいていた。今回、福岡県から生産工場である日産自動車九州に無償で譲渡していただくこととなり、43年ぶりに誕生の地に帰ってきました。

セレナ(C27) e-POWER生産開始  
セレナ(C27) 2018年ミニバン  
販売台数No.1獲得



ティアナ(L33)生産終了



ローグ(J12)生産開始



# 日産自動車九州設立 10 周年に寄せて

## 歴代社長からのメッセージ (敬称略)

Message



児玉 幸信

初代 (2011年10月～2014年3月)

日産自動車九州設立10周年を迎えられましたこと誠にありがとうございます。  
設立に携わったものとして、早くも10年が経ち今も力強く活動されているということに感慨無量  
のものを覚えます。私が日産自動車 九州工場長として着任したのは2009年で、当時は超円高の  
状況で国内は空洞化しており、九州工場からは多くの人が常時関東に応援に出ており精神面や  
生活面においても大変な状況の中、九州VICTORY という活動を開始し、コスト高というハンディ  
を乗り越えようと皆が死に物狂いで取り組みました。

九州VICTORY活動と新会社化の二つの施策が、日産自動車九州を日産グローバルの中でトップ  
レベルの競争力に押し上げ、国内生産量の半分以上を生産するようになりました。その間の施策は、  
現場中心の自律的経営をはじめ、日産圏初の購買部門常駐による部品の九州地場化、製造技術員の  
設置、西日本工業大学様との産学連携研究、変則二交代勤務などを鮮明に思い出します。激動の  
日々の中で、迷いながらも一度決めたことはやり抜くという固い決意を全員がもって突き進ん  
だ日々でした。

私にとって一生の中でも最も貴重な体験であり宝となる思い出です。しかし、それは、従業員  
一人ひとりの愚直で真摯な努力によってもたらされたものであり、これに対し、改めて全ての  
従業員に心から感謝と敬意を表したいと思います。

今も、取り巻く環境は不透明かつ厳しいものですが、熱い魂を引き継いできている皆さんなら、  
必ずどんな苦境でも乗り切っていると信じています。人間は、乗り切る苦難の数が多ければ多いほど、苦難の高さが高ければ  
高いほど、大きく成長するものであり、また、会社もそれにつれて成長するものです。乗り切った人々の表情は清々しいものです。  
皆さんが、清々しい笑顔でこれからも日々の活動を継続していかれることを心から祈念しております。



柴崎 康男

二代目 (2014年4月～2016年3月)

日産自動車九州設立10周年おめでとうございます。私は2代目社長として2年間だけお世話に  
なりましたが、比較的平穏な時期だったので、新会社の礎を築いた初代の児玉社長、難しい時期を  
乗り越えられてきた荒井社長、現在の富山社長のご苦勞・ご尽力に改めて敬意を表したいと  
思います。

私の在職期間中の最大の思い出は、日産自動車の九州進出40周年、累計生産1,500万台達成の  
記念式典を開催した事です。1,500万台の生産・出荷に携わった代々の従業員の皆さん、ご協力  
いただいたお取引先の皆さまの労力は莫大なものでしょうし、そして地域への貢献も計り知れない  
ものだと思います。その日産の九州に於けるプレゼンスは、長い間、日本製鐵様と双壁だったで  
しょう。

近年は、他の自動車メーカーの進出、地元企業のグローバルでの躍進などで、日産のプレゼンスも、  
以前のような輝きを維持するのが難しい環境になってきていると当時から感じていました。それは、  
この地域が一段と発展した証かも知れませんが、何となく残念な気がしてしまいます。

日産が、今後もこの地域で信頼され、多くの方々に受け入れていただくには、100年に一度と  
言われる自動車産業の変革の波に乗り遅れる事なく、総合的なモノづくり力を極めて、九州一  
の自動車生産台数を継続的に達成する事、また、SDGsに沿った活動を通して地域社会に貢献する  
事が必要です。そして、願わくば、苅田ビクトリーズが硬式野球部に格上げされ、九州代表に返り  
咲く日が来れば、過去の名声を取り戻せると思っています。

2025年には、日産自動車の九州進出50周年と累計生産2,000万台達成を、40周年の時に植えた満開の桜の木の下で、  
お祝いできる事を楽しみにしております。



荒井 孝文

三代目 (2016年4月～2020年3月)

日産自動車九州10周年記念、誠にありがとうございます。私は3代目社長として2016年4月  
からの4年間で皆さんと過ごさせていただきました。この間、分社化するメリットを最大化する  
ことを目標にし、技術員の独自採用や管理職ポストへの人財登用などを進めることができました。  
一方、私自身に車両工場の知識が乏しく、技術的・戦略的な提案ができず、大変申し訳ありません  
でした。

日産自動車九州での思い出話をさせていただきます。就任直後に発生した熊本地震、自分たち  
のライン復旧と併行して益城町の支援にも向かいました。皆さんの強い九州愛を感じるとともに  
働くことを誇りに感じました。別府で開催した係長親睦会は楽しい思い出です。私の下手な  
ゴルフを馬鹿にせず付き合ってくれた係長の皆さん、ありがとうございました。夜の宴会でも  
沢山議論をしましたね。他にも、新浜祭・工長の皆さんとのコミュニケーション・苅田港浚渫の  
陳情・大量のエンジン交換・爆破予告事件など、いろいろなことがありました。その一つひとつを  
皆さんと一緒に乗り切ってくれたことを大変嬉しく思います。

最後になりますが、今日の日産自動車九州があるのは九州工場時代あつての事と思います。  
歴代の九州工場長の皆様、OBの皆様に敬意を表しますとともに、社員全員の益々のご健勝を祈念  
しております。おめでとう！

次の10年も期待しているぞ！

2009.4 2010.11 2014.3



日産自動車九州リレーマラソンにて



エクストレイル(T32) オフライン式にて

2014.4 2016.3



1,500 万台達成 記念懇親会にて



ノート(E12)オフライン式にて

2016.4 2020.3



新浜祭にて



板金作業体験 車体課にて



# 2011年 (平成23年)

# 2012年 (平成24年)

Yearly events

この年は  
こんな年

日産自動車九州の出来事

10月 日産自動車九州設立

日産の動き

- 2月 新型「モコ」発売
- 4月 「日産リーフ」がワールド・カー・オブ・ザ・イヤー 2011を受賞
- 5月 「NV200」が米国ニューヨーク市の次世代タクシーに選定
- 11月 「日産リーフ」2012年次RJCカーオブザイヤーを受賞

社会の出来事

- 1月 サッカー日本代表がアジアカップで優勝
- 2月 大相撲八百長発覚
- 3月 東日本大震災
- 4月 マスターズゴルフ／東北福祉大・松山英樹がベストアマ受賞
- 7月 女子サッカー日本代表(なでしこジャパン)がワールドカップで初優勝
- 8月 女子サッカー日本代表(なでしこジャパン)が国民栄誉賞を受賞
- 9月 アメリカ同時多発テロ事件から10年
- 10月 NYで異例の雪

## 日産自動車九州設立



FBS めんたいワイド 2011年9月20日

## 日産九州が事業開始

「国内生産100万台の中心に」  
日産自動車の九州工場を分社化して発足した「日産自動車九州」(福岡県苅田町)が3日、同社で設立記念式典を開き、本格的に事業を開始した。式典に出席した従業員1900人を前に、児玉幸信社長は「日産九州の役割は輸出できる競争力を持つこと、小型車でも収益を出せる会社になり、国内生産100万台を維持する中心となることだ」と力強く語った。また日産自動車の志

【小原擁

毎日新聞 2011年10月4日

この年は  
こんな年

日産自動車九州の出来事

8月 ノート(E12)生産開始

日産の動き

- 5月 新型「シーマ」発売 電力供給システム "LEAF to Home" を市場に導入
- 6月 「NV350 キャラバン」発売
- 11月 日産「ノート」、2013年次RJCカーオブザイヤーを受賞

社会の出来事

- 1月 都心で6年ぶりに積雪4センチ
- 4月 日米首脳会談
- 6月 野田首相、再改造内閣
- 8月 温暖化準備会合が開幕
- 9月 安倍新総裁誕生
- 10月 石原都知事辞職
- 11月 大谷選手日本ハムに指名
- 12月 米大リーグ・松井秀喜選手が引退

## 九州初の小型車 ノート(E12) 生産開始



## 小型車初の九州生産 日産「ノート」を全面改良

日産自動車は28日、小排気量を小さくして燃費エンジン」を小型車で初めて採用する。国内生産100万台を維持する重要拠点と位置付ける生産子会社、日産自動車九州(福岡県苅田町)で製造する初の小型車となる。

ノートの全面改良は7年ぶり。価格は新エンジン採用車が144万9000〜167万4750円。非採用車が124万9500〜155万7150円。2012年度は残り7カ月で計10万台を販売する計画。その後、年平均12万台を販売し、国内の日産車で最量販車の機能を高める」と強調に育てる。燃費は燃料1

日本経済新聞 2012年8月29日



## 2013年 (平成25年)

## 2014年 (平成26年)

Yearly events

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

- 3月 構内でリレーマラソンを開催
- 7月 デュアリス (J10) 生産終了  
塗装工程 CO<sup>2</sup> を3割減
- 12月 エクストレイル (T32) 生産開始  
5800トン プレス初打ち式

## 日産の動き

- 6月 新型軽自動車  
日産「デイズ」発表
- 8月 自動運転の取り組みを発表

## 社会の出来事

- 2月 大鵬さんに国民栄誉賞
- 5月 MERS コロナウイルスによる  
感染症が発生
- 6月 イチローが日米通算 2500 安打を  
達成
- 7月 サッカー日本代表が東アジアカップ  
で初優勝
- 9月 プロ野球・楽天初優勝
- 10月 国会に吉野家がオープン

民間企業初！  
日産自動車九州リレーマラソン in 苅田町塗装工程を短縮 CO<sup>2</sup> を3割減

塗装工程を短縮 CO<sub>2</sub> を3割減  
日産、九州工場で

日産自動車は4日、国内主力工場の日産自動車九州（福岡県苅田町）に新塗装技術を導入したことを明らかにした。塗装面を高温で熱して定着させる工程を2回から1回に減らし、塗装ラインも短くして消費電力を減らした。塗装工程で排出する二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の量を従来方法に比べて3割以上削減できる。メキシコやブラジルに建設中の工場にも導入し、生産効率向上と環境対策の強化につなげる。

日本経済新聞 2013年7月5日

## 5800トン プレス初打ち式

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

- 3月 児玉社長退任（2009年就任）
- 4月 ティアナ (L33) 生産開始  
柴崎社長就任
- 5月 ルノーメンバー BM 見学

## 日産の動き

- 2月 新型軽自動車「日産デイズ ルークス」発表  
新型「日産スカイライン」を発表
- 6月 日産EV初の商用車「e-NV200」を発表

## 社会の出来事

- 1月 天皇杯サッカー  
横浜F・マリノスが初優勝
- 2月 ソチ五輪 フィギュアスケート男子  
で羽生 結弦が金メダル
- 4月 消費税が5% から8% へ
- 5月 女子サッカー日本代表（なでしこ  
ジャパン）がアジアカップで優勝
- 6月 富岡製紙場が世界文化遺産に  
登録決定
- 7月 サッカードイツ代表がワールドカップ  
で優勝

## 児玉社長退任



二会 地区会長・幹事長と

## 柴崎社長就任



日産九州社長に柴崎氏  
日産自動車九州（福岡県苅田町）は17日、長57歳が就く人事を発表した。4月1日付。柴崎氏は、親会社の日産自動車生産事業本部生産管理部部長などを経て2011年4月からタイ日産副社長を務めている。

児玉氏は09年4月、日産の九州工場長に就き、11年に分社化で設立された日産九州の初代社長に就任した。部品の九州・アジア調達を進め、新型フットやSUV（スポーツタイプ多目的車）の新型エクストレイルの生産を担ってきた。

【石田宗久】

毎日新聞 2014年3月18日



## 日産の動き

10月 ハイウェイから一般道までの自動運転が可能な実験車両での公道テストを開始

## 社会の出来事

11月 パリで同時多発テロ事件が発生

累計生産 1,500 万台・40 周年記念式典



**日産自動車九州の歩み**

1973年7月	日産自動車福岡東田町に進出決定
1975年4月	九州工場がエンジン生産開始(2000年まで)
1976年12月	ダットサントラック→写真①生産開始
82年8月	初の乗用車のシルビア生産開始
92年5月	第2工場稼働 累計生産50万台達成
2000年4月	乗用車・軽自動車生産開始
04年12月	累計1,000万台達成
10年1月	開業以来の日産乗車九州が稼業開始
11年10月	日産自動車九州設立
15年5月	生産150万台達成

写真① 1976年に完成したダットサントラック。当時の乗用車は輸入品で、乗用車生産は1982年から始まる。

日産九州は、九州から始まり、九州の中心地福岡市を拠点として、全国に展開してきた。2003年には、現所在地である福岡市東区東田町に進出した。この工場では、現在、乗用車を中心に生産している。また、この工場では、乗用車だけでなく、トラックやバスなども生産している。このように、日産九州は、九州の発展とともに成長してきた企業である。

## 年間10万台規模 追加生産

## 北米向けS

日産自動車は先日、北米市場向けのSUV（スポーツタイプ多用途車）ローグ・日本名をクエスト、を生産会社の日産北米九州工場から、年間10万台の生産量を加生産すると発表した。

北米市場向けの不十分を補うため、これまで日産は約16万台の国内生産と、約10万台の国外生産を数え、10万台の国内生産を達成した。

日産は13年に米国で発売された。今年1～6月で発表実績は前年同月比で前年増の135000台と、販売が好調、北米向けを生産する米子

## 16年度国内生産 100万台回復見込む

## V 来春から

ネシー州と韓国との協力は、今までは供給逼迫につきかたくなっていた。日産九社は従来、旧型ロータリーやストレイオロエンジンを生産し、中東、各主要市場の最もコスト競争力が高いので、今回明後年度以降が可能な削減計画だ。日産九社の1984年度生産能力は約700万台、実需は約600万台で、生産能力は年40万回分が、残量として50万台程度まで対応可能という。

柴崎組副社長は世界一のものをづくりと競争力の回復を象徴とした。『石田次』

サトランの生産を  
76にダクトし  
開し、輸船運  
型型内輸出用  
岸があり、輸出  
185万バレルし  
計40万バレル輸  
出する。海外  
の需要に  
また、国向け  
ニシン、セチヤ  
車の一、数量  
の国生産産  
の引き立て  
も。産額は約  
300万、九州に  
配分され、大  
量に輸入さ  
る。

北米向けSUV 来春から

毎日新聞 2015 年 7 月 10 日

この年は  
こんな年

11月 熊本県益城町へ生産車セレナを寄贈

## 日産の動き

11月 ノートに電動パワートレイン[e-POWER]  
を追加  
「セレナ」が2017年次「RJCカーオブザ  
イヤー」を受賞 併せて、「プロパイロット」  
が「RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞

## 社会の出来事

12月 人気アイドルグループのSMAPが解散

## 荒井社長就任



西日本新聞 2016年6月22日

## 熊本地震支援活動



熊本県益城町へ生産車セレナを寄贈



熊本日日新聞 2016 年 11 月 17 日



# 2017年

(平成29年)

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

1月	新型 SUV ロードスポーツ (J11) 生産開始
5月	防犯協会みまもりパトロール表彰
7月	北部九州豪雨災害支援活動
8月	北部九州豪雨寄付金を苅田町へ寄託
10月	福岡県「安全・安心まちづくり県民の集い」に参加
12月	東風汽車との物流ベンチマーク活動

## 日産の動き

9月	新型「日産リーフ」を発表
12月	カーシェアリングサービス「NISSAN e-シェアモビ」を開始

## 社会の出来事

2月	プレミアムフライデー開始
6月	上野動物園のパンダ「シンシン」が5年ぶりに出産
7月	九州北部豪雨
9月	眞子さま婚約内定
11月	トランプ米大統領、初来日

## 新型SUVロードスポーツ(J11)生産開始

### 日産九州 新型SUV生産

今春から年数万台規模



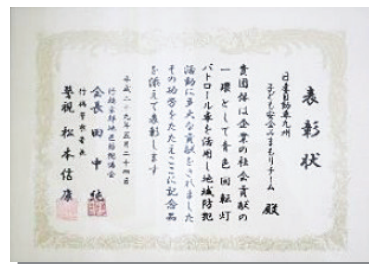
ロードスポーツ 北米向けに計画  
日産自動車九州(福岡県苅田町)が、新型SUV用多目的車(SUV)「ロードスポーツ」の生産を始めることが分かった。北米での投入に伴い、全量を生産九州から輸出する計画で、今春から本格生産に乗り出す見通しだ。年間生産台数は数万台規模とみられ、売れ筋であるSUVの強化を狙う。

(山口尚志)

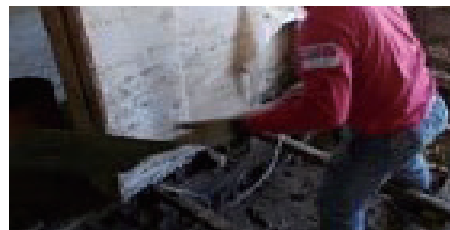
日産九州は、グループの国内生産の約1割を担う主力工場だ。同じ敷地で操業する日産車体九州と合わせ、2016年度は生産台数は過去最高だった12年度の約17万台と同規模が見込まれる。17年度はロードスポーツの生産開始に伴い、13年末で生産を取りやめていた。

読売新聞 2017年1月12日

## 地域貢献活動 防犯協会みまもりパトロール表彰



## 北部九州豪雨災害支援活動



# 2018年

(平成30年)

Yearly events

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

4月	受電所新設 地鎮祭開催 福岡県交通安全協会「青パト」にリーフ22台採用
5月	完成検査票チェックシステム導入
6月	九州工場車両生産第1号車、ダットサントラック(620型)福岡県より無償譲渡
7月	西日本豪雨に伴うサプライヤー災害支援(岡山県笠岡市)
8月	西日本豪雨災害被災地へ義援金を苅田町へ寄託 行橋市「市民総踊り」に新入社員が初参加
11月	第一回 challenge111 貢献賞表彰式開催(受賞者家族とともに)

## 日産の動き

1月	ドライバーの脳波測定による運転支援技術を開発
2月	DeNAと無人運転車両を活用した交通サービス「Easy Ride」の実証実験を開始
3月	新型「日産リーフ」、2018年ワールド・カー・アワードにて「ワールド・グリーン・カー」賞を受賞

## 社会の出来事

5月	藤井棋士、史上最年少で七段に
7月	西日本豪雨 五輪連覇の羽生結弦選手に国民栄誉賞
9月	安室奈美恵さん引退
11月	2025年大阪万博決定

## 福岡県交通安全協会「青色パトロール」活動 新型「リーフ」を22台採用



## 西日本豪雨災害被災地へ義援金を 苅田町に寄託



朝日新聞 2018年8月27日

## 行橋市「市民総踊り」に新入社員が初参加





# 2019年 (令和元年)

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

- 5月 スポーツフェスタを開催
- 8月 佐賀豪雨 工務課復旧チームによる佐賀鉄工所災害支援
- 9月 プレスXLライン 初打ち式
- 12月 ティアナ (L33) 生産終了

## 日産の動き

- 3月 新型「日産デイズ」を発表
- 5月 「プロパイロット 2.0」(インテリジェント高速道路ルート走行) を新型スカイラインに搭載
- 10月 東京モーターショーにて「ニッサン アリア コンセプト」と「ニッサン IMk」を初披露
- 11月 「日産デイズ」が2020年次「RJCカーオブザイヤー」を受賞、併せて「プロパイロット 2.0」が「RJCテクノロジーオブザイヤー」を受賞

## 社会の出来事

- 4月 新元号は「令和」
- 6月 蒼井優さんと山里亮太さんが結婚
- 8月 小泉進次郎氏と滝川クリステルさんが結婚
- 10月 消費税 10%スタート 天皇陛下、即位を宣言

## 初開催！ スポーツフェスタ in 北九州メディアドーム



## ティアナ (L33) 生産終了



# 2020年 (令和2年)

Yearly events

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

- 3月 荒井社長退任
- 4月 富山社長就任
- 5月 新型コロナ対策 内製マスク・ガウンチーム発足 福岡県へ医療用ガウン寄贈
- 6月 北九州市へ医療用ガウン寄贈 北九州市・九電グループと電気自動車(EV)を活用する災害連携協定を締結
- 7月 令和2年7月豪雨被災地へ従業員提供の支援物資を苅田ライオンズクラブへ寄託
- 11月 ローグ (J12) 生産開始
- 12月 正門イルミネーション点灯式

## 日産の動き

- 7月 新時代の100%電気自動車「日産 アリア」を発表 横浜みなとみらいに、体験型エンターテインメント施設「ニッサン パビリオン」をオープン 新しいブランドロゴが、日産の新たな地平を開く

## 社会の出来事

- 2月 新型肺炎でクルーズ船が横浜港停泊
- 3月 東京五輪来年7月23日開幕
- 7月 令和2年7月豪雨
- 8月 安倍首相が辞任表明
- 9月 第99代 菅内閣が発足

荒井社長退任&amp;富山社長就任

北九州市・九電グループと  
電気自動車(EV)を活用する  
災害連携協定を締結

## 内製ガウンで医療従事者支援 自治体に寄託



福岡県 小川知事へ



北九州市 北橋市長へ

## 新型コロナ感染対策! マスク・ガウン製作チーム



マスク製作チーム



ガウン製作チーム



# 2021年（令和3年）

Yearly events

この年は  
こんな年

## 日産自動車九州の出来事

1月	積雪による生産影響
3月	工場外壁へ新ブランドロゴ設置
6月	竹灯籠点灯式
7月	新型コロナワクチン職域接種開始
8月	ユニフォーム刷新
10月	日産自動車九州 設立10周年 苅田町・行橋市と電気自動車(EV)を活用する災害連携協定を締結

## 日産の動き

1月	新型「ローグ」でアルミ部品のクローズドループ・リサイクルを適用 2050年カーボンニュートラルの目標を設定
4月	電動パワートレイン「e-POWER」の国内販売累計が50万台を突破
6月	新型車「ノート オーラ」発表 日産のチームウェアを刷新、さらにOne Teamへ!
10月	日産自動車、「インテリジェントファクトリー」を公開

## 社会の出来事

1月	バイデン米大統領就任
4月	男子ゴルフ松山英樹がマスターズで優勝
7月	東京オリンピック開幕
10月	岸田内閣が発足

## 工場外壁に新しいブランドロゴを設置



ユニフォーム刷新



## 竹灯籠点灯式 ～心に灯りを～



## 新型コロナワクチン職域接種開始



## 苅田町・行橋市と電気自動車(EV)を活用する災害連携協定を締結

**苅田町と日産グループ  
災害時電力源で協定**  
避難所にEV 京築地域で初

苅田町と日産自動車（福岡市）なグループは、災害時の避難所運営などに同社の電気自動車（EV）を電力源として活用する災害連携協定を締結した。日産グループは全国の自治体や企業などと同様の協定を結んでおり、京築地域では初、全国で13件目の締結となった。【松本昌樹】

災害による大規模停電が起きた際、日産側が町指定の避難所に「量販店」のEV「日産リーフ」を一般家庭4日分の出力で充電し、町に電力の一部を供給。販売店に設置された充電スタンドに充電能力がある。町役場では7日、調印式と結電のデモンストラ

町（の）苅田町は、協定締結を機に、町が「日産リーフ」を避難所に配備し、災害時に活用する。町役場では7日、調印式と結電のデモンストラ

町役場では7日、調印式と結電のデモンストラ

EV「日産リーフ」から家電製品などに電力を供給する流れを説明する日産自動車の担当者

毎日新聞 2021年10月13日





## 各工程の職場紹介

## Workplace introduction

プレス

車体

塗装

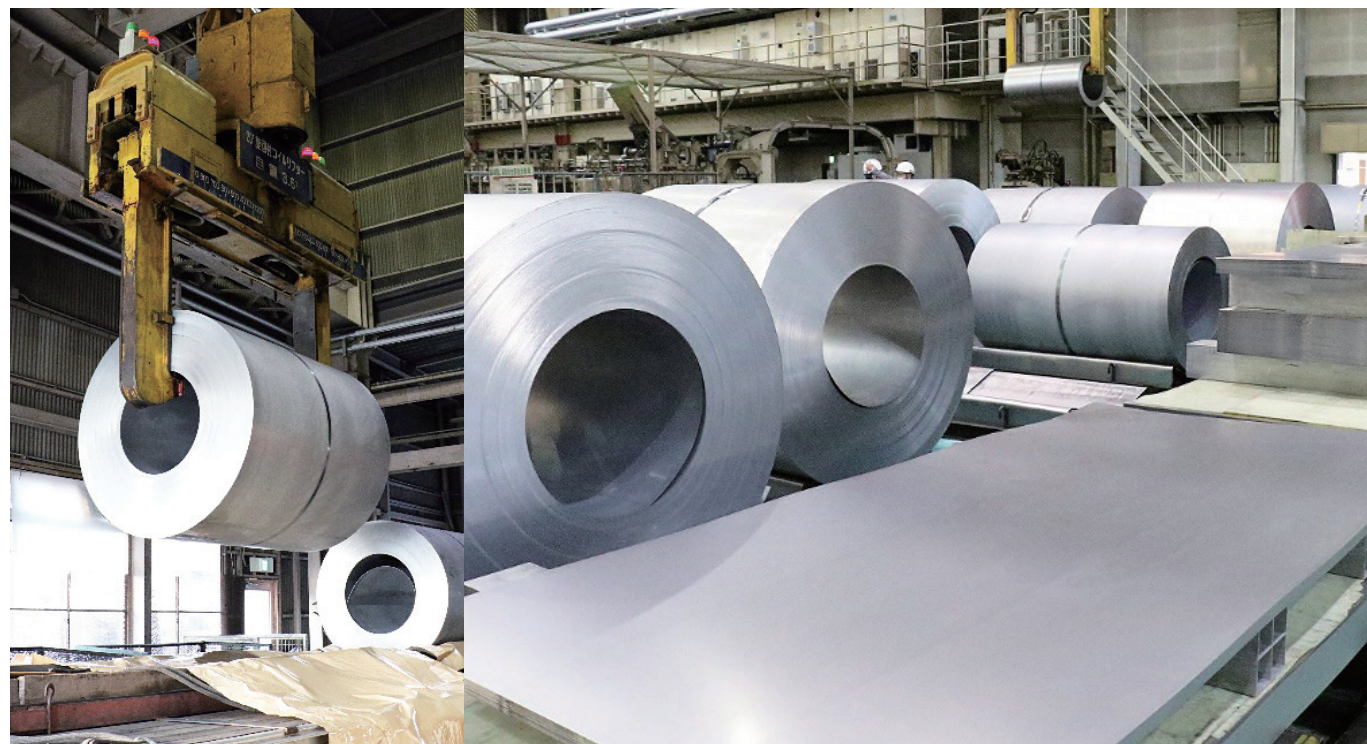
組立

検査

現場管理・物流・保全



ロール状の鉄板を切断し、5,000トンもの強い圧力でプレスして  
ルーフ、フロア、ドアなどのパネル部品を造ります。



プレス

車体

塗装

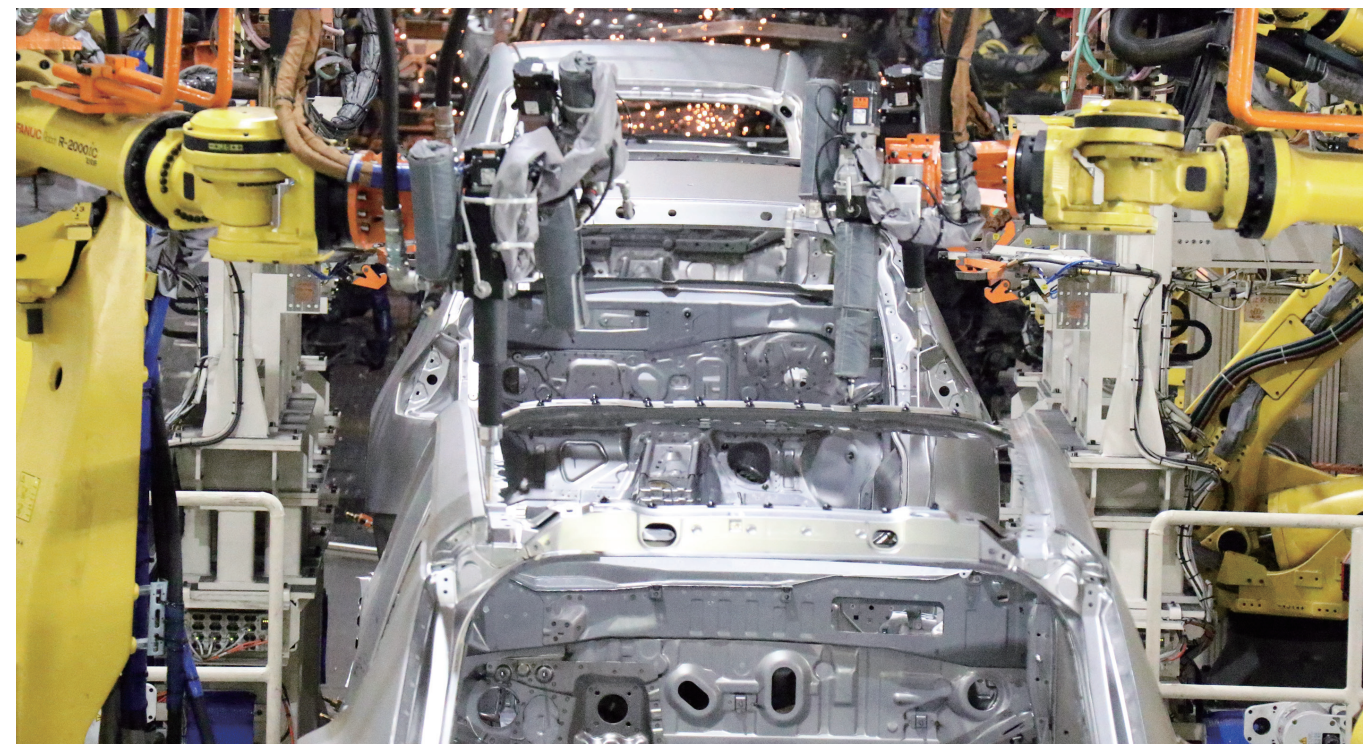
組立

検査

現場管理・物流・保全



プレス加工されたパネルを溶接ロボットで繋ぎ合わせ  
ボディの形に組み立てます。非常に高い精度が要求される工程で、  
もっとも自動化が進んでいます。





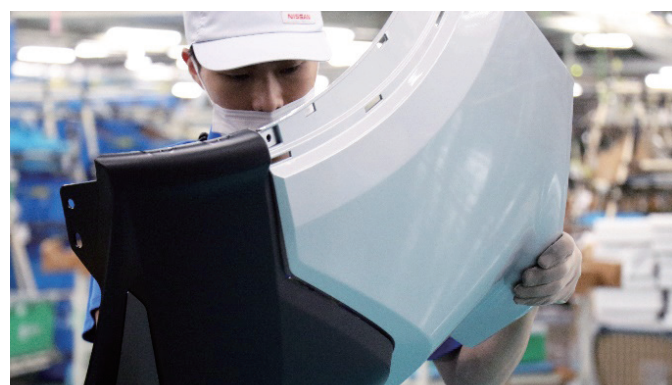
## 各工程の職場紹介

## Workplace introduction

プレス 車体 塗装 組立 検査 現場管理・物流・保全



ボディは十分に洗浄した後、錆防止の下塗り・下地の中塗り・仕上げの上塗りと入念に塗装します。



プレス 車体 塗装 組立 検査 現場管理・物流・保全



ハンドル、窓ガラスなどは人が手作業で組付け、ドアやシートは機械がアシストして取り付けます。





## 各工程の職場紹介

## Workplace introduction

プレス


車体

塗装

組立

検査

現場管理・物流・保全



資格を持った検査員が完成車の約 1,200 項目を検査。  
安全・品質・走行性能のチェックを行います。



プレス

車体

塗装

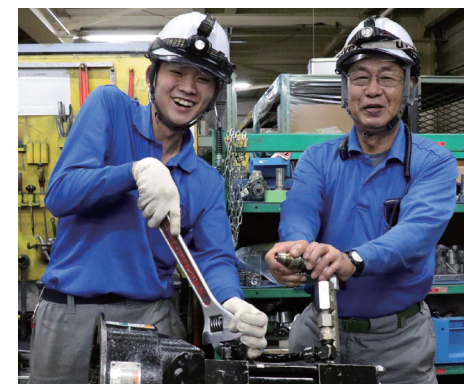
組立

検査

現場管理・物流・保全



部品の運搬、設備の点検・補修、  
モノづくり管理など生産運営における  
サポートを行っています。





# 地域とのつながり

## Corporate Social Responsibility

これからもより地域へ開かれた工場を目指して  
地域の皆様との交流を図ってまいります

### 開かれた工場をめざして

工場見学に来られたお客さまへ敷地内「ドリームパーク23」の一般開放や体育館、スターグラウンドも貸し出しており、地域の活動に利用いただいております。



ゲストホール



ドリームパーク23



体育館



スターグラウンド

### 将来世代のために

社会貢献の一環として、学生を対象に日産の基本技能やエンジン組み立てなどの実習、日産の「モノづくりの楽しさ」を将来世代に体験いただいております。



モノづくり教室



現場熟練者の指導



インターンシップ受け入れ



スポーツ大会支援

### 地域社会と共生をめざして

事業所祭や工場見学を通じて地域の皆さまと交流・共生に努め、また、条例よりも厳しい基準で工場廃水の処理を行うなどSDGsにも貢献しております。



事業所祭(新浜祭)



工場見学



被災地支援活動



水処理場

### 交通安全はみんなの願い

近隣(苅田町・行橋市)の通学時間帯に合わせ横断歩道立哨による見守り活動や青色パトロールを行い、子供達の安全・安心を守る活動を実施しております。



交通安全立哨活動



学童見守り(青色パトロール)



夜間防犯パトロール

### 地域とより良いパートナーシップを築くために

「クリーンな街づくり」に貢献するため工場周辺の美化活動や町内一斉清掃等へのボランティア参加を積極的に行っております。



わっしょい百万夏まつり  
清掃ボランティア



工場周辺清掃活動

### 日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」

ゼロ・エミッション社会の実現を目指す日産の『ブルー・スイッチ』活動として各地の政府や自治体、企業・団体と一緒に地域創生に貢献する取り組みを行っております。



苅田町との災害連携協定



北九州市小倉北区防災訓練



苅田ビクトリーズ



青井副社長 × 入社 10 年目社員対談

Round table

入社から 10 年、そして将来への期待…

取締役副社長の青井さんと日産自動車九州設立後の 2012 年 4 月に入社した各課代表の 8 名がこれまでの 10 年と将来について語り合いました



座談会

[司会進行]  
製造部 第二組立課 課長 志水 敏夫

取締役副社長 青井 宏 × 入社10年目社員

[各課代表 8 名 (2012 年 4 月 入社)]

工務部 工務課

立石 歩

品質保証部 第一品質保証課

野田 匠

製造部 圧造課

藤井 翔太

製造部 車体課

上澤 塁

製造部 塗装課

古川 大晃

製造部 第一組立課

中畑 翔太

製造部 第二組立課

岩下 誠也

製造部 物流課

山形 大智



工務部 工務課

立石 歩

TATEISHI Ayumi

日産ラーニングセンターで行われた入社3年目教育に派遣され、横浜、追浜、栃木工場の同期社員が集まり一緒に教育を受けたことが強く記憶に残っています。異なる工場でもやっていることは似ているものが多く、栃木ではどうしているかなど聞くことができ、大変良い知識を身につけることができました。

自職場の特徴かもしれませんが、ベテラン社員が多くいる中でなかなか自発的に発言できない若手もいるため、そういった雰囲気をなくしていきたいです。上下関係を保ちつつも、フレンドリーに話せる環境を整え、自分から発言できるような雰囲気作りができれば良いと思っています。



品質保証部  
第一品質保証課

野田 匠

NODA Takumi

入社直後の製造実習時は、日々1日約2時間程の残業をしていた記憶が強く、仕事はこんなにきついのかと正直思いました。今は皆が頼みたいものを頼むことができる雰囲気になり、また職場のトイレが綺麗になるなど環境も改善され、働きやすい会社になってきていると思います。

ベテランも若手も本音を話してくれるので、頼られていると感じ嬉しく思います。また、自分が教えると若手がついてきてくれるので、これからも継続して指導していきたいと思っています。

完検問題後、職場では正しく、基準通りに仕事をしようという風潮が一般層から上位層まで浸透しています。この風潮を変えずに工長、係長になり、後輩にも引継いでいきたいと思っています。

| 入社 10 年を振り返って、10 年後にありたい姿について

製造部 圧造課

藤井 翔太

FUJII Shota

入社5年目にグローバル競技大会治工具の部で1位を獲得したことが自信となりました。また、3年前に座間の型製作に派遣され、型作りを学び、その時にこの10年の中で一番自分自身の成長を感じました。

我々10年目のメンバーでどんどん職場を引っ張って行けるような存在になりたいと思います。10年後には、皆から頼られる工長、係長、課長になり、若手、後輩を盛り上げたいと思います。

プライベートではゴルフが趣味なので、シングルプレイヤーを目指して、仕事とゴルフの二刀流を目指していきたいです(笑)。



製造部 車体課

上澤 塁

UEZAWA Rui

入社当時は体重が100キロほどあり、仕事がかきつかったため、自然と体をしぼることができました(笑)。昨年はものづくり経営に行き、仕事の幅が広がりました。現在は、リーダーとして現場の改善を進められるようになったことが楽しく、改善できた時の達成感を覚え、充実した毎日を過ごしています。

自分が監督者になったら、部下のやりたいことができる環境を整えたり、モチベーションを持ってもらえるような機会をつくり、組員全員を一つにまとめられるような係長を目指したいです。

これまで野球を通じて培ってきたチームワークを活かしたいと思っています。



## 青井副社長 × 入社 10 年目社員対談

### Round table



製造部 塗装課

古川 大晃

FURUKAWA Hiroaki

塗装課に配属され、当時ノート（E12）の生産台数が多かったために高負荷であり、2か月間で15キロも痩せました（笑）。1つの工程を長く経験する方もいる中で、自分は様々な工程に携わり、幅広く経験できたことが財産だと思っています。

入社時に感じたことは「苅田ビクトリーズ」という野球チームに属して、仕事をしながら野球もできるという点が魅力でした。但し、夜勤をしながら野球をすることは体力的にとてもぎつかったです（笑）。

憧れの先輩が職場にたくさんいるので、そういう先輩に追いつけるように頑張りたいと思います。



製造部 第一組立課

中畑 翔太

NAKAHATA Shota

入社当初は高校生気分も抜けず、周囲に迷惑をかけたかもしれません。その中で人間関係が構築されていき、周りの先輩から社会のルールについて一から教わりました。今は後輩に教える立場になって、自分が経験したことを伝えていきたいと思っています。

会社への期待として、これからはガソリン車から電気自動車（EV）にシフトしていくと思いますが、EVと言えば日産、日産と言えばEVと言われるような時代の先頭に立っていった欲しいと思います。

10年後には上の立場に立って優しく指導していきたいと思っています。プライベートとしては、結婚して、入社時からの夢であるマイホームを持ちたいです（笑）。



取締役副社長

青井 宏

【略歴】

1983年4月 日産自動車(株)九州工場車体課入社  
2010年4月 総務部人事健康課課長  
2016年4月 日産自動車九州(株)車体課課長  
2018年4月 製造部次長  
2020年4月 副社長  
2021年6月 取締役副社長

#### | 自身のキャリアを振り返って

私は日産高等工業学校卒業後、1983年に日産自動車九州工場車体課に入社し、39年目を迎えました。入社して5、6年は会社を辞めようかなど思い悩んで過ごしていました。20代中盤で「この会社で頑張ってみよう」と仕事を真剣に考えるようになりました。

10年前、日産自動車から独立することが決まった時、当時の児玉工場長から「独立に伴って職場が抱えている悩みや考えを聞いてほしい」と要請を受け、毎日定時後に各課を訪問し、「なぜ独立する必要があるのか」「新会社をどうしたいのか」などについて意見交換をしました。そして、職場の皆が理想と思う新会社にするため、プロジェクトを立ち上げ、「何をしたら良いのか」「こういう改革をしていきたい」ということを論議した結果、今ある予算管理の仕組みを作り、また、女性の働き方について時短勤務など働き方改革の足掛かりをつくることができました。会社の節目にやりたいことを皆で論議してきた結果が、日産自動車九州を変えてきたということをもっと理解して欲しいと思います。

#### | 10年目の皆さんに期待したいこと

日産短大、NMKカレッジなど教育の成果が出てきている時期であつたり、一方で指導員の立場で職場の意見がダイレクトに返ってくることもあれば、時には自分を飛び越えて直接工長のところに入っていくという難しい立場にある時期でしょう。そのような中で職場一人ひとりの意見を聞いて、相手を尊重する考え方を当たり前に持っていることはとても大切なことです。「会社に来ることが楽しい」と思える環境をつくるのが皆さんの役目ですから、それがしっかりとできるように全力を尽くしてください。

新入社員の中で社長になりたいという人がいると思います。私が副社長になったのだから、皆さんの世代から社長になることも現実的になったでしょう。それくらい大きく会社は変わってきています。皆さんは、いくらかでもゴールをかえられますので、これから先の10年、20年を自身で良い未来に変えていった欲しいと思います。頑張ってください。

## | 入社 10 年を振り返って、10 年後にありたい姿について



製造部 第二組立課

岩下 誠也

IWASHITA Masaya

入社8年目に日産短大に派遣され、栃木や追浜などの他工場を見て、日産自動車九州にはなかった改善知識を吸収することができました。九州に戻ってからはさらにNMKカレッジの改善コースに派遣され、日産短大とは異なる経験をすることができました。

今の組立ラインは、社員の定着率があまり良くない状況です。身体への負担が大きいことがその原因の一つであると思います。作業時の身体への負担を軽減できるように、これまでの経験を小さな改善から一つひとつ積み重ねていって、10年後には率先して改善を行う工長になりたいと思います。



製造部 物流課

山形 大智

YAMAGATA Daichi

入社時は社会人としての自覚が持てずに不安で正直希望が持てませんでしたが、自分が家族を持つようになって、自分の子どもを不自由なく生活させてあげたいという気持ちが芽生え、頑張ろうと思うようになりました。

日産自動車九州が他工場からベンチマークされ、新車をどんどん立ち上げ、日産の中でもトップクラスの工場になって欲しいと思います。

10年後には係長になり、その先は更なる上を目指すために、今自分が担当している業務をしっかり自分のものにしていきます。そして、後輩に会社の方向性を理解させ、物流課の目標へ導いていけるような存在になりたいと思います。



皆さんと話をして率直に、今後の可能性を秘めたエネルギーを感じ、また、外見・言葉・風格が大人になっており、とても頼もしい姿を見ることができました。

皆さんはこれから先、頑張れば頑張るほど徐々に課題も大きくなり、上手くいかない事も増えてくると思います。それでも一つひとつ課題を乗り越える事で、乗り越えた先には「自らを守る防波堤」ができていますので、現場で果敢にチャレンジを繰り返しながら成長してくれることを切に願っています。

皆さん！期待していますよ！

【司会進行】 製造部 第二組立課 課長

志水 敏夫



| コーポレートパーパス



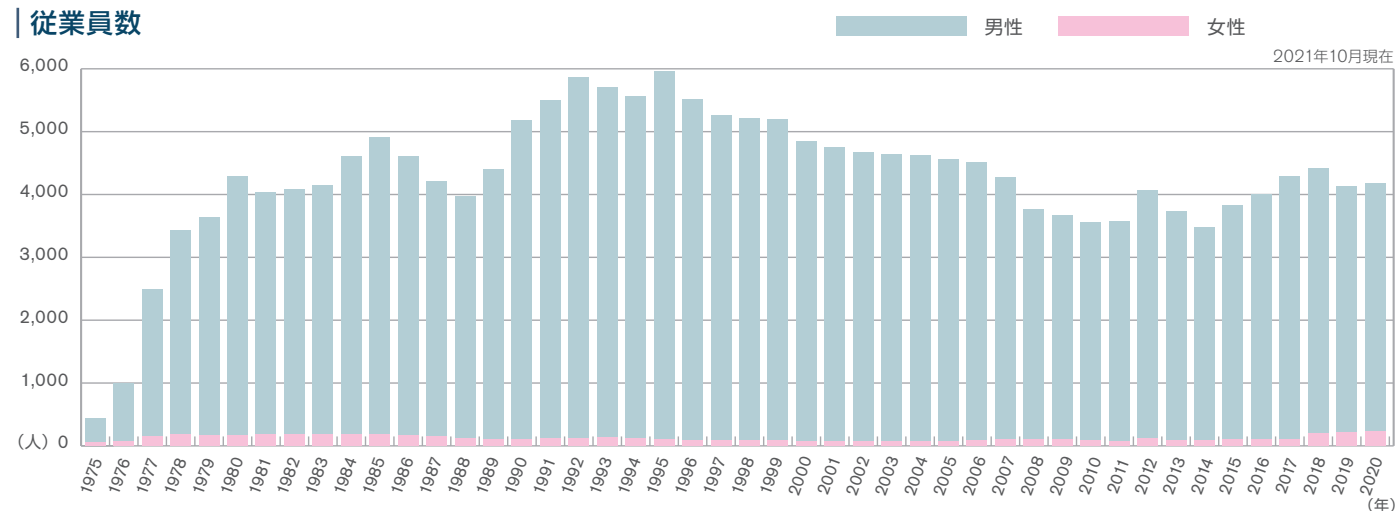
| ミッション



| 会社概要

社 名	日産自動車九州株式会社	敷地面積	2,362,000m <sup>2</sup>
代 表 者	富山 隆	従業員数	約 4,600 名 (2021 年 10 月現在)
設 立	2011 年 8 月 1 日	生産能力	約 53 万台／年
稼 働	2011 年 10 月	生産品目	セレナ、エクストレイル、 ローグ（輸出専用）、 ローグスポーツ（輸出専用）
所 在 地	福岡県京都郡苅田町新浜町 1 番地 3		

| 従業員数



日産自動車九州株式会社 10 周年記念誌

発行日 : 2022 年 3 月 1 日

発 行 : 日産自動車九州株式会社

〒800-0395

福岡県京都郡苅田町新浜町 1-3

TEL: 093-435-1111 FAX: 093-435-1511

編 集 : 日産自動車九州株式会社

人事・渉外部 総務課

株式会社日産クリエイティブサービス

企画・R&D ビジネスサービス部

R&D 情報サービス課 Data&Design team

資料協力 : 日本経済新聞社 読売新聞社 朝日新聞社

毎日新聞社 西日本新聞社 熊本日日新聞社

FBS 福岡放送

印刷・製本 : 株式会社日産クリエイティブサービス

<https://www.nissankyushu.co.jp/>







**NISSAN**  
GROUP OF JAPAN - ASEAN